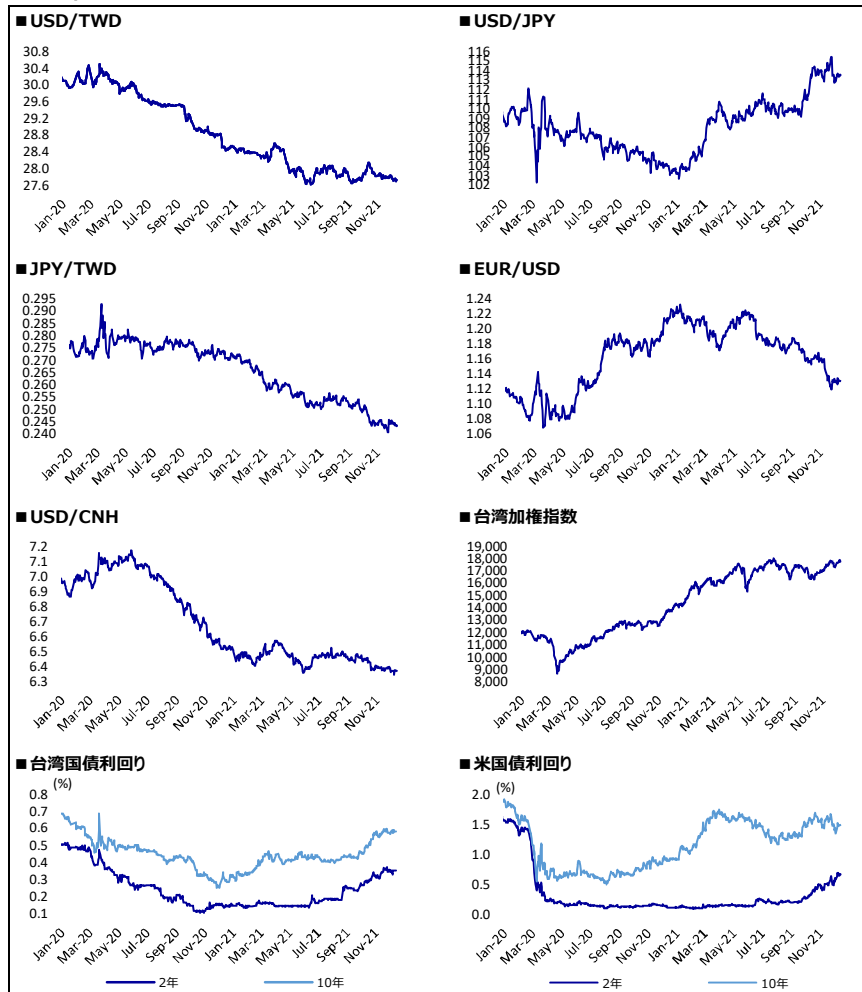


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルはレンジで推移。週初12/6は27.730でオープン後、輸出企業のドル売りと輸入企業のドル買いやファンドの海外への送金等が相殺する形となり、27.30付近の狭いレンジで推移。12/7は27.790とギャップアップしてオープンしたもののすぐに戻したが、前日の外国人投資家の株の売り越しからドル買いが優勢となり、27.78付近まで上昇。12/8はオミクロン株への警戒感が和らぎ、台湾株が急上昇するとドル台湾ドルも27.73付近まで下落。しかし、同水準では輸入企業のドル買いも入り底堅く推移。12/9も台湾株が堅調に推移する中、輸出企業のドル売りも加わり、一時27.677まで下落。しかし、その後は外国資本の海外送金もあり、下げ幅を縮小。12/10は人民元安の流れを受けてドル台湾ドルは27.74付近まで上昇したが、輸出企業のドル売りは変わらず、27.72付近で推移。最終的には先週比0.1%ドル高台湾ドル安の27.737で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式買い越し額は136.0億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は上昇。週初12/6は112.75でオープン後、実需のドル買いにつられて113円台を回復。その後、オミクロン株の症状は比較的に軽いという報告から、リスクオフムードが和らぎ、米株・米長期金利が上昇し、ドル円も113円台半ばまで上昇。12/7もリスクオフムードが和らぐ中、113円台後半での推移が続いたが上値は重かった。12/8は113円台前半まで一時下落する場面もあったが、米製薬大手から既存のワクチンの3回目接種がオミクロン株に対して効果があると発表したこと、リスクオフの流れとなり、米金利が上昇する中、一時113.95まで上昇。12/9は、株式市場の軟調な推移と米長期金利の低下を受け113円台前半まで下落したが、米新規失業保険申請件数が市場予想を下回ったことでドル買いが優勢となり、113円台半ばまで戻した。12/10は米11月CPIが発表されたが、前年同月比で6.8%と前月より加速し、約39年ぶりの伸びとなったが、予想の範囲内であったことから、翌週のFOMCで金融引き締めペースを加速する材料視されないとの見方が広まり、ドル売りが優勢と。米金利も低下したことから113円台前半まで下落。最終的に先週比0.5%ドル高円安の113.40で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：27.650-27.790
「オミクロン株」の感染拡大は続くものの、マーケットでは過度の警戒感はいらいてきている。今週はFOMCを控え、様子見が続くであろうが、FOMCがタカ派な内容となっても、12月の輸出企業のドル売り実需は強く、上値は押さえられるだろう。

■ USD/JPY 予想レンジ：112.80-115.00
今週はFOMCを控えており、テーパリングの加速を織り込んでいるが、ドットチャートによる利上げ見込みに注目したい。利上げペースに加速が見られれば、米金利の上昇につられてドル高となる展開に気を付けたい。

今週の予定

12/13 (MON)	
12/14 (TUE)	米11月PPI
12/15 (WED)	米12月NY連銀製造業景況指数、米11月小売売上高、FOMC
12/16 (THU)	台湾金融政策決定会合、ECB理事会、米住宅着工/許可件数、米11月鉱工業生産
12/17 (FRI)	日銀金融政策決定会合

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。